



新春を迎えて

南富良野町長 池部 彰

平成二十五年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、これからの日本ということで政治を考える一年、東日本大震災の復興がなかなか進まない中で、節電や絆などを考える一年であつたと思います。

しかし、私たちの日常を振り返り、現代社会の中で見失っていたもの、忘れてかっていたものを再確認する機会ではなかつたでしょうか。

「絆」は、身近で最も大切な家族のつながり、向う三軒両隣の近所とのつながり、人と人とのつながりのほか、地域とのつながり、そして、私が大切にする行政と皆さんとの絆もあるでしょう。この絆があつて、真の協働のまちづくりができると確信しているところです。

節電は、豊かな社会になつた今日、電気をはじめエネルギーは決して無尽蔵ではないことを改めて教えてくれました。ひとり一人が、意識を持つこと、知恵を絞ることができることからの積み重ねで、この課題を乗り越えていかなければならないと思つております。

さて、国内の経済は依然として長引く円高や国内消費の減退などによる景気の低迷が依然として回復ができない状況にあり、国は、税と社会保障の一体改革をはじめとする財政問題、年金制度改革、震災の復旧復興対策、TP

P問題など大きな課題を抱えており、地方自治体のおかれていた環境は大変厳しいものがあります。

この様な中で、昨年の町長選挙では、皆様に温かいご支援を賜り、再選を果たすことができました。この場をお借りして、心から厚くお礼申し上げます。これまでの経験を活かして、引き続き「町民参加のまちづくり」行動する行政」を基本姿勢に掲げ、町民皆様が安心して住みつけられる行政サービスの実現をめざして、行政がどこまで取り組んで行けるのか、どの領域まで踏み込んで行けるのか、この限界をしっかりと見極めながら、町民の皆様とのニーズに一つ一つ丁寧に応えていき、困難な課題が多々あつても、町の振興発展のために「小さな町だからこそできるまちづくり」を、念頭に置きながら、町政の推進に邁進してまいりたいと思つております。

これまでのまちづくりにおいて、農業基盤の整備、ポテトチップス製造工場「シレフ」の誘致、特別養護老人ホーム「ふくしあ」の建設など地域基盤の強化、地域の活性化や雇用の確保を図り、保健・医療の充実を推進し、住みよい南富良野の建設に努めてまいりました。

しかし、全国的な流れではありますが、本町においても少子・高齢化、人口の減少、地域産業の振興など、数多くの課題があります。昨年12月10日に本町のまちづくりの最上位計画であります平成25年度から向こう10年間の

第5次総合計画の答申を審議会よりいただき、先般12月の定例議会においてその基本構想などの承認が得られたところであります。

計画策定にあたり、審議会委員の皆様をはじめ、アンケートや地域懇談会などでご意見やご提言などの協力をいただきました。町民の皆様には、衷心より厚くお礼申し上げます。

南富良野町第5次総合計画につきましては、『共に創る笑顔で生き生きみなみふらの―太陽と森と湖のまち』を「まちの将来像」としてまいります。

この「まちの将来像」の実現のため、迎える社会や経済情勢の変化に対応しながら、住民皆様の幸せを感じる「住み続けられる、住み続けたいと思える」まちづくりのため、農林業・商工・鉱業・観光・福祉などの地域産業の振興をはじめ、保健・医療・福祉の充実、安全・安心・快適な生活基盤・生活環境づくり、次代を担う子どもたちの育成と支援、住民と行政が協働するまちづくりを目指してまいります。

平成二十五年につきましても、町民の皆様と意識を共有して、「南富良野町」の更なる発展と歴史を刻むため、町職員一丸となり、本町のまちづくりを最大限の努力を傾注させていただくことを申し上げます。町民皆様のご健康とご多幸をご祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十五年 元旦

年頭にあたって

南富良野町議会議長 鹿野 重博

町民の皆様には、希望に満ちた平成二十五年の新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より議会運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、東日本大震災後初めての衆議院総選挙が、消費税、社会保障制度、TPP交渉参加、原発問題などを争点に、12月執行としては28年ぶりに行われ、自民党の圧勝という結果になりました。震災被災地の復興をはじめ景気回復、エネルギー問題など山積する課題解決にむけ一刻も早い対策を願うものです。

また、昨年は北日本での大雪被害で幕を開け、国内各地では爆弾低気圧など異常気象による被害もありました。隣国である韓国との竹島問題、尖閣諸島国有化による中国での反日デモなどにわかに緊張が走り、地震による原発事故以降その安全性が問われる中、一時は国内全ての原発の稼働が停止、節電・計画停電の要請も行われました。

そのような中で、ロンドンオリンピックでの日本選手の健闘は本場にすばらしく、北海道出身の3選手を含め38個のメダルは日本中に元気を与えてくれました。そして10月には、iPS細胞の開発により山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞されるなど、世界の中での日本人の活躍は明るい話

題でありました。

本町においては、大きな災害もなく平穏な一年であつたと思つています。

そうした状況の中で基幹産業を見つめますと、農業については、昨年の融雪は平年より少し遅れたものの、4月下旬から5月上旬にかけて好天に恵まれ、植え付けや播種作業は順調に進み、その後も天候も良く適度な降雨もあつたことから順調に生育し、全体的に平年並みの収穫となつたようです。また、農業生産者のみならず、TPP参加に関しても多くの町民が不安を感じていません。農山漁村が崩壊することのないよう我々国民が厳しい目で将来を見極めなければなりません。

林業については、依然として厳しい状況であり、林業労働者の減少や高齢化による林業担い手対策については深刻化しています。しかし、地球温暖化問題により森林の多面的機能が見直されてきている時にもあり、一層の施策の推進が必要な時期とも考えられます。

商工業については、国の公共事業のさらなる削減などにより、建設業者の方々は特に厳しい状況にあると思つています。また、商店を経営している方々も、経済不況による購買力の低下、消費者の町外流出など大変厳しい状況が続いています。商工会ではこの対策として、町内商店の販売促進を図るためポイントカード事業を継続して実施して

いるところであり、昨年暮れに行つたプレミアム商品券の販売についても、町内の消費拡大と購買促進に大きな効果があつたものと思つており、商工会員の皆様の協働体制など更なる努力をお願いし、この厳しさを乗り越えていただきたいと思つています。

このように厳しい町内経済が続いている中ですが、本年は、新しい10力年の南富良野町第5次総合計画の始まりの年でもあります。第4次総合計画の総括をきつちりと行い、産業・福祉・教育など各分野において、住み続けたいと感じられる魅力あるまちづくりの施策を期待するものです。

私たち議員といたしましても、任期の折り返しが近づき、町民皆さまの代表として初心に立ち返り、執行機関と一体となり、本町の発展と住民福祉の向上を目指して、議員活動を行って参りますので、一層のご協力をお願い申し上げます。

新年がスタートしましたが、町民の皆様におかれましては、健康に十分留意され、本年も皆様にとつて最良の年でありませう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十五年 元旦

